

令和6年度 沖縄群島 病害虫発生予報 第1号（4月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和6年3月21日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○4月の発生予報（沖縄群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		3月の発生量 (平年比)	3月からの 増減	4月の発生量 (平年比)	
さとらきび	① メイチュウ類（カンシャシクイハマキ・イネヨトウ）（株出し）	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
（温州みかん）	① かいよう病	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
	② そうか病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	③ ハダニ類	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
（タカンカ）	① かいよう病	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
	② アブラムシ類	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	③ ミカンハモグリガ	やや多	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	④ ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
マンガ	① ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
（さいはんげん）	① タバココナジラミ	やや多	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	② ハダニ類	やや多	↘	やや多	平年の発生量の推移（↘）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○4月の発生予報つづき（沖縄群島）

作物	病害虫名		調査結果	予報		予報の根拠
			3月の発生量 (平年比)	3月からの 増減	4月の発生量 (平年比)	
（ニ 施 ガ ウ リ ）	①	うどんこ病	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	②	斑点病	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	③	タバココナジラミ	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移（→）
（ピ 施 マ ン ）	①	うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	②	ミナミキイロアザミウマ	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	③	ヒラズハナアザミウマ	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
	④	タバココナジラミ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	⑤	アブラムシ類	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	⑥	ハダニ類	やや多	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
（ト 施 マ ト ）	①	黄化葉巻病	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	②	うどんこ病	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	③	葉かび・すすかび病	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
	④	タバココナジラミ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	⑤	ハモグリバエ類	やや多	↗	並	平年の発生量の推移（↗）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターの
ホームページにて、発生予察の詳細
内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（沖縄群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	台湾ツチイナゴ	防除員報告で久米島で発生が多くなっているのが確認された。年1回の発生で3~5月に産卵し、4~6月にふ化する。1~3歳の若齢幼虫はほ場周辺の雑草を摂食し、4歳以降からサトウキビの葉を食害する。移動能力の低い若齢幼虫期の薬剤散布防除を徹底する。又、ほ場周辺の雑草防除を徹底する事も若齢幼虫防除に効果的である。
(温州みかん)	黒点病	樹上の葉・枝などの病斑、枯枝が伝染源になるため、発病した葉・枝、枯枝を徹底して除去する。感染時期である新芽期以降から、薬剤による予防散布を行う。
(タカシキ)	黒点病	樹上の葉・枝などの病斑、枯枝が伝染源になるため、発病した葉・枝、枯枝を徹底して除去する。感染時期である新芽期以降から、薬剤による予防散布を行う。
(カキ)	アオヒメハナムグリ (コアオハナムグリ)	花粉や蜜を求めて成虫が花に飛来し、その際に口吻や爪で子房を傷つける。このため果実に線状の傷がつくことで、外観を損ねる。開花期に頻繁にほ場を見回るようにすると共に、ミツバチ類に影響の少ない薬剤による防除に努める。
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	チョウ目幼虫	一部施設でコシロモンドクガの発生が見られた。ガ類幼虫は新葉を食害するので、施設内を見回り、早期発見・防除に努める。
	カイガラムシ類	一部施設でコナカイガラムシ類の発生がみられた。甘露を排泄するカイガラムシ類は樹上のアリ類を探することで発見しやすくなる。カイガラムシ類は、一般的に成虫の薬剤感受性が低いことから、幼虫に対して薬剤防除を行う。
レタス	斑点細菌病	一部ほ場で発生が認められた。本病害は結球してからの発生が多く、気温が比較的低い時期で多湿条件が続くと発生・多発する傾向がある。症状は外葉に淡褐色水浸状の小型病斑を生じ、拡大して褐色～淡黒褐色の不定形の病斑になり、基部に向かってV字に枯れ込む。対策としては強風降雨の後には薬剤散布を行う。罹病葉・株をほ場に放置すると残さと一緒に病原細菌が土壌中で生存し次作に被害を及ぼすので、ほ場外に持ち出し処分する。

令和6年度 宮古群島 病害虫発生予報 第1号（4月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和6年3月21日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○4月の発生予報（宮古群島）

作物	病害虫名	調査結果	予報		予報の根拠
		3月の発生量 (平年比)	3月からの 増減	4月の発生量 (平年比)	
さとうきび	① メイチュウ類（カンシャシクイハマキ・イネヨトウ）（株出し）	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
ニガウリ（施設）	① うどんこ病	やや多	→	やや多	平年の発生量の推移（→）
	② 斑点病	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
	③ ミナミキイロアザミウマ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
	④ タバココナジラミ	やや多	↗	やや多	平年の発生量の推移（↗）
（施設・立体栽培）	① ミナミキイロアザミウマ	やや多	↗	並	例年の発生量の推移（↗）
	② タバココナジラミ	やや多	↗	並	例年の発生量の推移（↗）
	③ ハダニ類	やや多	→	やや多	例年の発生量の推移（→）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（宮古群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	カンシャワタアブラムシ	宮古島および伊良部島のほ場で発生が確認された。大発生するとすす病を併発し生育を阻害する。新植夏植えほ場への定着は春季の大発生の原因になるため、葉裏を確認して初期防除を徹底する。
マンゴー	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。

令和6年度 八重山群島 病害虫発生予報 第1号（4月予報）

○向こう1か月の天候の見通し（令和6年3月21日発表：沖縄気象台）

平均気温	降水量	日照時間
高い	ほぼ平年並	ほぼ平年並

○4月の発生予報（八重山群島）

作物	病害虫名		調査結果	予報		予報の根拠
			3月の発生量 (平年比)	3月からの 増減	4月の発生量 (平年比)	
（1）水稲	①	スクミリンゴガイ	並	→	並	平年の発生量の推移（→）
さとうきび	①	メイチュウ類（カンシャクイハマキ・イネヨトウ）（株出し）	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
マンガ	①	ハダニ類	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）
（2）施設ウリ	①	斑点病	並	↘	並	平年の発生量の推移（↘）
	②	タバココナジラミ	並	↗	並	平年の発生量の推移（↗）

※発生量は、ほ場調査の結果の平年値または例年値の同月比。

- 平年値：過去5～10年間の発生量の平均値
- 例年値：過去3～4年間の発生量の平均値

※（発生なし）は、今回の調査中に観察することができなかった病害虫。

※増減傾向は、発生量（現況）と比較した翌月の増減を予測している。



沖縄県病害虫防除技術センターのホームページにて、発生予報の詳細内容やその他情報を掲載しています。

○その他注意すべき病害虫（八重山群島）

作物	病害虫名	発生状況及び防除事項
さとうきび	カンシャクイアブラムシ	多くのほ場で発生が確認された。大発生するとすす病を併発し生育を阻害する。新植夏植えほ場への定着は春季の大発生の原因になるため、葉裏を確認して初期防除を徹底する。
マンガ	炭疽病・軸腐病・すす点病	せん定枝や残さは伝染源となるので、施設外へ持ち出し処分する。
	カイガラムシ類	甘露を排泄するカイガラムシ類は樹上のアリ類を探すことで発見しやすくなる。カイガラムシ類は、一般的に成虫の薬剤感受性が低いことから、幼虫に対して薬剤防除を行う。

向こう1か月の天候の見通し
沖縄地方（03/23～04/22）

予報のポイント

- 向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため高く、特に期間の前半はかなり高くなる見込みです。

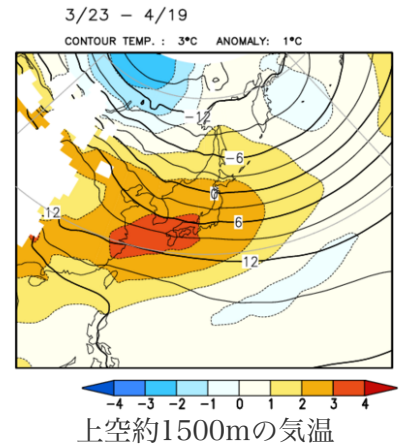
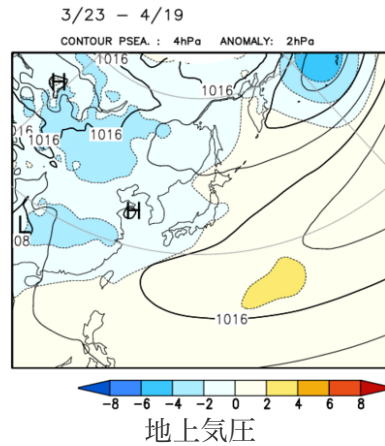
1か月の平均気温・降水量・日照時間

	平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
沖縄地方	低10 並20 高70% 高い見込み	少40 並30 多30% ほぼ平年並の見込み	少30 並30 多40% ほぼ平年並の見込み
数値は予想される出現確率（%）です	<p>平均気温（1か月）</p> <p>低い確率（%） 50 40 40 50 高い確率（%） 以上 平年並も40以上</p>	<p>降水量（1か月）</p> <p>少ない確率（%） 50 40 40 50 多い確率（%） 以上 平年並も40以上</p>	<p>日照時間（1か月）</p> <p>少ない確率（%） 50 40 40 50 多い確率（%） 以上 平年並も40以上</p>

数値予報モデルによる予測結果

1か月平均の地上気圧（左図）は、沖縄の南海上では平年より高いと予測され、沖縄付近では低気圧や前線の影響を受けにくい時期があるでしょう。

上空約1500mの気温（右図）は、大陸から日本付近にかけて平年より高いと予測され、沖縄付近では暖かい空気に覆われやすい見込みです。



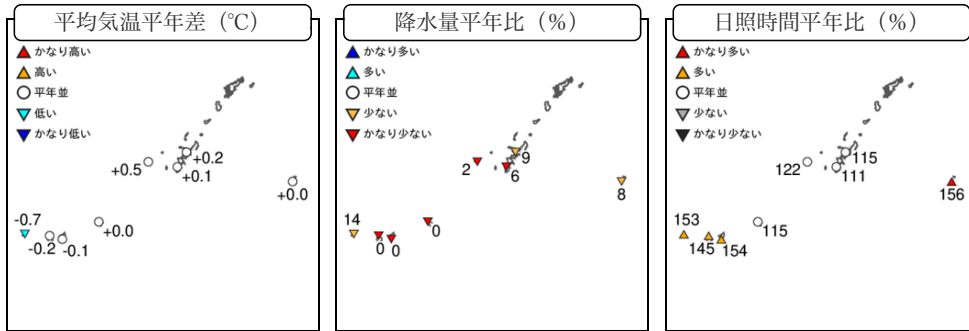
季節予報では、よく似た初期値から出発した多数の数値予報結果を利用します（アンサンブル予報）。多数の結果の平均（上図など）から大気の状態を判断し、また結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します。

	平均気温（1週目） 03/23～03/29	平均気温（2週目） 03/30～04/05	平均気温（3～4週目） 04/06～04/19
週別の天候	湿った空気の影響で雲が広がる日もありますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。	天気は数日の周期で変わるでしょう。	天気は数日の周期で変わるでしょう。
沖縄地方	低10 並10 高80% 高い見込み	低10 並20 高70% 高い見込み	低20 並30 高50% 高い見込み
数値は予想される出現確率 (%) です			

明日から1週間の、日別の天気や気温などは、週間天気予報 (<https://www.jma.go.jp/bosai/forecast/>) を参照してください。

季節予報は、予測の確からしさに応じて、気温や降水量などを「低い（少ない）、平年並、高い（多い）」となる確率で表しています。「平年並」がどの程度の値になるのかについては、参考資料 (<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/sankou/okinawa1.html>) をご覧ください。文章による解説については、確率の大きさに応じた言葉で表現しています。詳しくは本資料末尾の「参考（確率予報の解説）」をご覧ください。

最近1週間の天候経過



(実況) 03/14～03/20	平均気温平年差	降水量平年比	日照時間平年比
沖縄地方	0.0℃ (平年並)	4% (かなり少ない)	131% (多い)

参考

確率予報の解説（ここでは確率予報を次のような言葉で解説しています）

出現確率（低い（少ない）：平年並：高い（多い））	解説
高い（多い）確率が50%以上	高い（多い）見込み
(20：40：40)	平年並か高い（多い）見込み
平年並の確率が50%以上	平年並の見込み
(40：30：30) (30：40：30) (30：30：40)	ほぼ平年並の見込み
(40：40：20)	平年並か低い（少ない）見込み
低い（少ない）確率が50%以上	低い（少ない）見込み

気温・降水量・日照時間等の平年値につきましては、次のページをご覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/sankou/okinawa1.html>



天気日数（晴れ日数及び降水日数）の平年値につきましては、次のページをご覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/kaisetsu/tenkinissuu/tenkinissuu.html>

